

虐待から子どもを助ける手法を探る

ーテキストマイニングによる児童養護施設の目的・目標からの基礎的検討ー

Finding Ways to Help Children from Abuse: Basic Examination from Aim and Purpose of Children's Nursing Home by Text Mining Method

仙田 麻美†
Asami Senda

千田 眞喜子†
Makiko Senda

1. はじめに

児童養護施設は、児童福祉法 41 条の「児童養護施設は、保護者のない児童（乳児を除く。ただし、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、乳児を含む。以下この条において同じ。）、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする。」を元に設置運営されており、0～2 歳は乳児院、2～18 歳までは児童養護施設で過ごしている（吉田、2016）。

2. 研究手法

京都府、大阪府、兵庫県、3 府県の 79 箇所の児童養護施設 HP より目的・目標のテキストデータに対してテキストマイニングを用いて、検討した。解析ソフトは KH coder（KH coder、2019；樋口、2014）を用いた。文章を形態素分析により一語一語に分けて、語の出現回数を調べた。形態素解析器は茶筌（奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科自然言語処理学講座（松本研究室）、2019）を用いた。前処理を行ってデータベースの統計結果（総抽出語数、異なり語数）を確認し、次に抽出語リストを出力した。次に、最小スパニングツリーを求めて解析した。また、対応分析も行った。

3. 結果・考察

3.1 記述統計

表-1 に記述統計の結果を示す。総抽出語数は 7106、そのうち使用した語数は 3187、異なり語数は 1101、そのうち解析に使用した語数は 869 である。文の数は 337、段落は 283 である。

表-1 記述統計

項目	数
総抽出語数（使用）	7106(3187)
異なり語数（使用）	1101(869)
文	337
段落	283

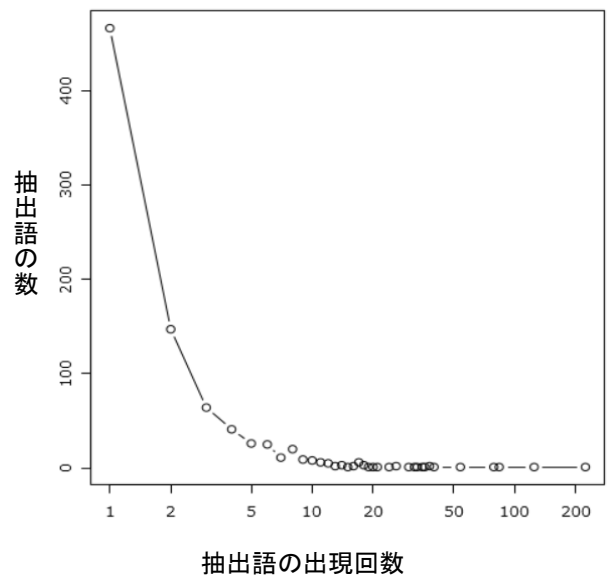


図-1 抽出語の数と出現回数

3.2 抽出語の出現回数

図-1 に抽出語の数と出現回数を示す。出現回数の平均は 3.67 であった。一度しか出現していない抽出語が多く（466）、出現回数が多い抽出語は少なく、同じ語が多く見られることがわかる。助詞のような何回も出現する語は解析から外した。

3.3 上位頻出語（20 回以上の語）

表-2 に上位頻出語（20 回以上の語）と出現回数を示す。最も多い語は「子ども」で 142 回、次に「生活」で 84 回、「支援」で 79 回であった。児童養護施設の目的・目標から読み取れることとしては、以下のことが挙げられる。

- (1) 児童養護施設では、出現回数が多い「子ども」が主体となり、「子ども」の人格を尊重し、子どもの最善の利益を考え職員が働きかけたり、家庭で過ごしたりしている子どもたちと変わらない「生活」を目指し環境づくりがなされている。
- (2) さまざまな理由で施設に入所している子どもが多いため、安心して「生活」ができるように「支援」していく必要がある。
- (3) 児童養護施設の中だけで活動をしていくのではなく、「地域」に出て、「地域」の人との行事を通して関わ

表-2 上位頻出語（20回以上）

抽出語	出現回数
子ども	142
生活	84
支援	79
児童	54
地域	40
行う	38
家庭	36
自立	35
職員	33
施設	32
社会	30
環境	26
関係	26
心	21
養育	20

っている。そして、将来健全な社会生活が営めることを目指している。

- (4) (1)、(2)、(3)を目的、目標に掲げ、児童養護施設は経営されている。

3.4 最小スパニングツリー（次数中心性）

図-2 に最小スパニングツリーの結果（次数中心性）を示す。最小スパニングツリーとはわかりやすくするために最も重要な共起関係だけを表示したものである。次数中心性が高いほど黄色→黄緑色→青色で示す。共起関係（他の語とつながっている線）が多いほど中心性が高い。出現頻度が高いほど大きいバブルで、強い共起関係ほど太い線で示す。語数は36、共起関係は32であった。

図-2 から、グループが4つに分かれることがわかった。

- (1) 児童養護施設は、「子ども」が自立した生活を送ることができるように「支援」していく「施設」である。さまざまな理由を抱え、施設に入ってくる子どもたちと、職員は信頼関係を築きながら、成長していく。
- (2) 「心身」とともに「健やか」に育つことを目標とする。

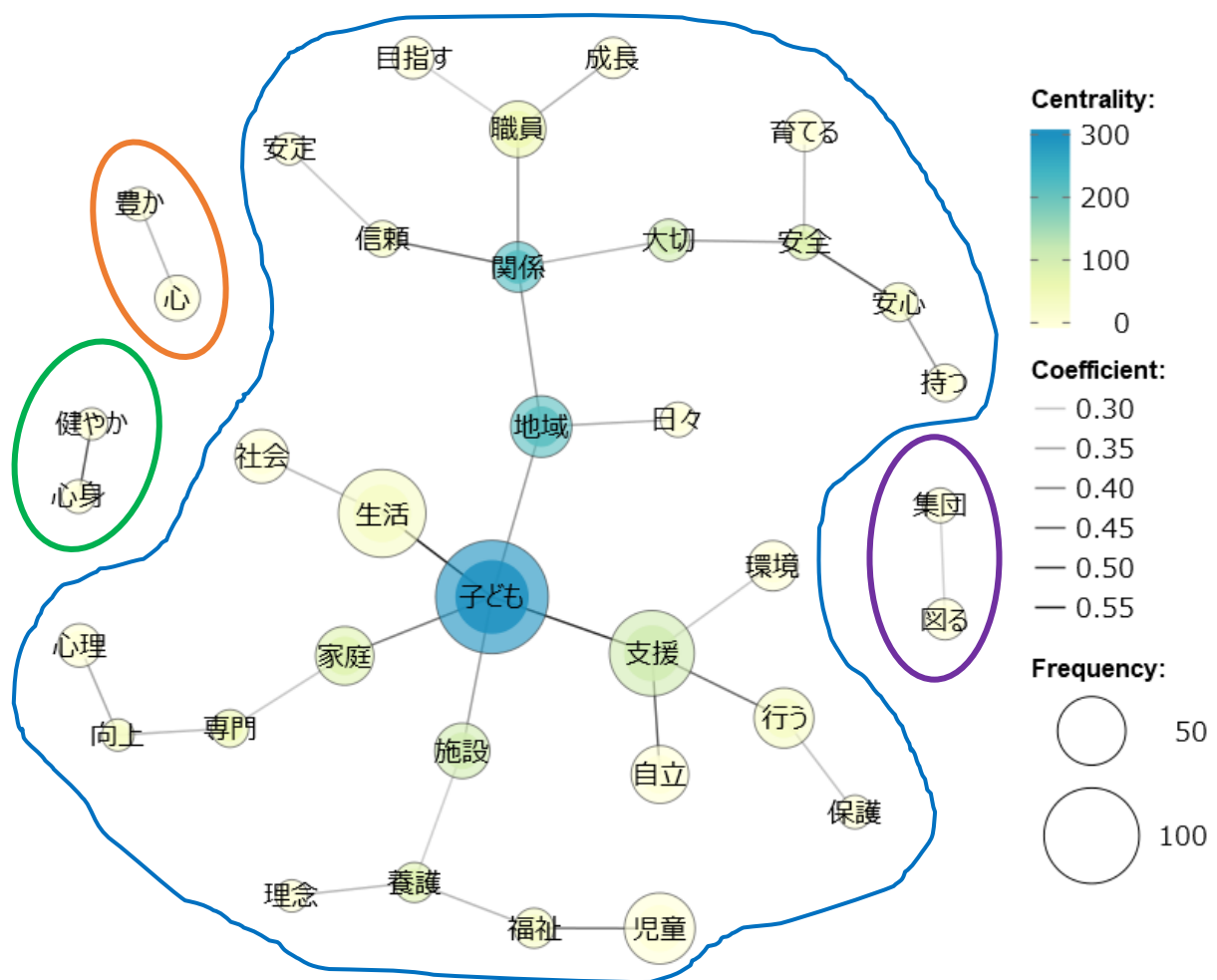


図-2 最小スパニングツリー（次数中心性）。語数は36、共起関係は32。

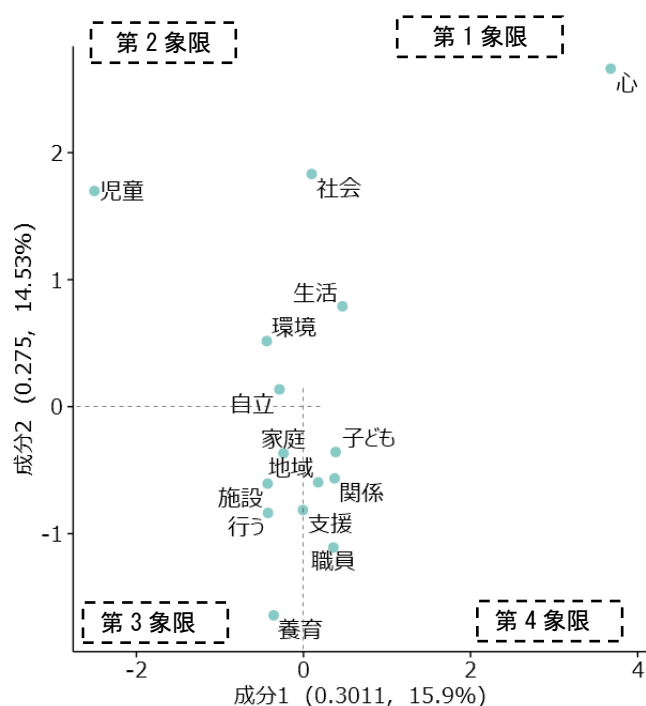


図-3 対応分析の結果（20回以上出現した語）

- (3) 「心」が「豊か」に安らぎのある生活を目指す。
- (4) 「集団」で過ごすことでより自己を知ることを中心に起き、健全な社会生活を見出させる人間形成を「図る」。

つまり、児童養護施設の目的、目標としては、児童福祉法 41 条にも定められている通り、「子ども」が「自立」して「生活」を送っていくために「支援」していくというものが多く見られた。そしてその目的、目標へ向かっていくために、「職員」をはじめ、「地域」の人の働きかけが必要である。

3.5 20回以上出現している語の対応分析

20回以上出現した語を用いて対応分析を行った。図-3にその結果を示す。以下の4つの象限に分けることができた。

- (1) 第1象限
子どもたちが心豊かに安らぎのある生活を目指し、集団で生活していく中で自己をより知り、自立した社会生活ができるように支援する。
- (2) 第2象限
児童が自立できる環境を支援する。
- (3) 第3象限
家庭的な施設で養育・支援を行う。
- (4) 第4象限
子どもが施設で過ごしていく中で職員との信頼関係を築き、支援していくことがとても大切である。また、施設の中だけで成長するのではなく、地域の行事に積極的に参加し、地域の人との交流を図ることが必要である。

第1象限

子どもたちが心豊かに安らぎのある生活を目指し、集団で生活していく中で自己をより知り、自立した社会生活ができるように支援する。

第2象限

児童が自立できる環境を支援する。

第3象限

家庭的な施設で養育・支援を行う。

第4象限

子どもが施設で過ごしていく中で職員との信頼関係を築き、支援していくことがとても大切である。また、施設の中だけで成長するのではなく、地域の行事に積極的に参加し、地域の人との交流を図ることが必要である。

4. まとめ

以上の結果から、児童養護施設に通う子どもたちを支援すること、関わっていくことは、とても難しいことであると感じた。施設の中にはみんなそれぞれ異なった理由で入所している。一人ひとり違ったケアをしなければならぬ。「親がいて、家があり、ご飯を作ってくれて、布団がある」というような生活が当たり前である人にとって、「親とはなれて暮らす子どもたちと共同生活をしていくこと」は知らない世界である。どんな理由で入所してきたのか、把握し信頼関係を築くことが本当に大切なことだと考えられる。親のケアを通し親の気持ちを子どもに伝え、これからどうしていきたいのか、しっかり話し合いをする機会を設けることも必要だと考える。子どもたちにとって最善の利益となるような行動をとれるようにさまざまな角度から支援していくことが必要である。

5. 今後の課題

児童養護施設に実習に行った学生にアンケートを実施する。アンケートの内容としては施設の中での子どもの様子、職員がどのように関わっていたのか、自分たちはどのように関わったのか、印象的な出来事、児童養護施設実習に行く前と後での考え方の変化等を検討する。

参考文献

- ・ KH corder、<http://khc.sourceforget.net/>、(参照：2019/2/12)。
- ・ 樋口耕一、社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—、pp.1-233、ナカニシヤ出版、2014。

- ・ 森田喜治、児童養護施設児の日常とところ:施設内心理療
法家の観点から、創元社、pp.22-33,90-129,198-224、2013.
- ・ 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科自然言語処
理学講座(松本研究室)、茶筌 ChaSen -- 形態素解析器、
<http://chasen-legacy.osdn.jp/>、(参照：2019/7/12).
- ・ 檜原真也、子ども虐待と治療的養育、金剛出版、pp.68-
132, 205-213、2015.
- ・ 大久保真紀、児童養護施設の子どもたち、高文研、
pp.87-218、2011.
- ・ 吉田明弘、児童福祉論－児童の平和的生存権を起点とし
て－、八千代出版、270pp、2016.